

6 まとめ

平成 12 年度から平成 17 年度にかけて 6 年間の調査を実施し、多摩川河口干潟の底生動物の生息状況とその生息環境の概要を把握することができました。

マクロベントスの生息環境としての底質性状については、極端な有機汚濁や富栄養化を示す値は確認されず概ね酸化状態にあり、比較的良好であるものと考えられました。また、マクロベントスおよびメガロベントスについては、変化に富んだ多様性の高い良好な環境に多様な種類の生物が生息しており、生息状況は比較的良好であるものと考えられました。これらの結果が得られたことは、今後、多摩川河口干潟の保全・再生を考えていくうえで意義のあることと考えます。

多摩川河口干潟は、前述したように東京湾奥部西側に残る唯一のまとまった干潟であり、東京湾全体から見てもその存在はとても貴重なものといえます。この豊かな自然を次の世代の子供達に引き継ぐために、私たちは自然を大切に、積極的に多摩川河口干潟の環境の保全・再生に取り組んでいく必要があると考えます。

